



通級だより



静岡聴覚特別支援学校

通級指導教室

2024年12月 No.7 文責杉山



通級指導の様子



通級指導教室では、子ども達の心の育ちに応じて、自分の聞こえの状態を知ると共に聞こえにくさがある自分を肯定的に受け入れ、たくましく生きる力を培うための様々な学習に取り組んでいます。

個別指導 一人一人の実態に合わせて聴能指導、言語指導、適応指導、教科学習の補充のきめ細かい指導を心掛けています。

グループ指導 子どもが様々な悩みや解決方法を相談し、共感し合える仲間がいることを知る機会となるため、同じ障害を有する仲間と学び合う機会を設けています。これは通級指導教室の大きな役割の一つと言えます。

個別指導

聴能指導



聴力測定、語音聴力検査、補聴機器の手入れなどの学習を通して聴覚環境への理解を深めます。

言語指導



教師とのやり取り、日記、作文等の活動を通し、学習や生活に生かせる言語力を身に付けます。

適応指導



学校での様子の振り返り、聞こえのトリセツの作成、先輩の事例の扱いなどを通して自己理解を深めています。

教科学習の補充



学習の取り組み方についての相談や学習の補充を行い自信をもって学習に取り組めるようにしています。

グループ指導

小高学年・中学



学校生活や興味関心のある話題について情報交換をしました。

お題カード

小低学年



すごろく

すごろくを通じて交流を深めました。

自己紹介

サテライト



聞こえ方に変わりはないか機械を使ってチェックします

面接やヒアリングの体験を行い入試の際の必要事項を考えました。

3 学期の行事予定

2月15日(土) 第3回通級生の集い
(通級生発表会)



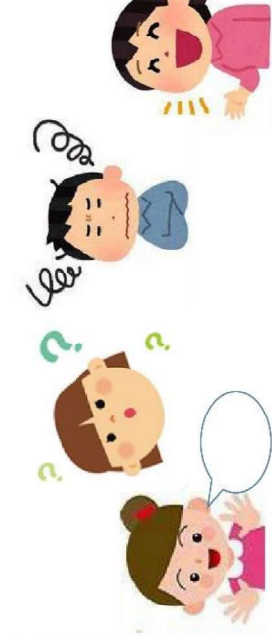
12月のスキルちゃん

～伝えるため、伝わるための
子ども側の姿勢～

＊子どもが話しているとき、他の子どもは話し手を見ていますか。

- ・教師が話し手を見るよう促す。
- ・教師が話し手の方に身を乗り出したり、教師が話している子の後ろに立ったりして、他の子どもに話し手への関心をもたせる。
- ・話す子ども自身が注視を促す。「見てください。」
- ・人数が多い場合は、話し合いのルールを作る。
(例 話したいときは挙手、指名されたら話すなど)
- ・状況によっては、発言者が前に出る。 等

×後ろにいる聞き手に
気づかずに話す。



×出しぬぐに話す。

話し手を見るよう促すことで、傾聴態度を育て、
相互読話が円滑にできるようにしていきたいですよ。

コミュニケーションは、双方の歩み寄りです。

話し手の顔を見たりうなずいて聞いたりすることは、

社会に出た時のマナーとしても大事です。

～発音・発語のポイント～

※濁音は、「バ」行音 (b 音) から始めましょう。

口を閉じてから息を出して p 音を発音する要領で声を出しながら発音すると b 音になります。(ブーと唇を閉じて声を出す練習をするとわかりやすい)